Museum News

秋田県立博物館ニュース

目　　次

表紙・目次……P.1
企画展紹介
（予告）企画展「古（ふる）イイ看板」……P.2
（報告）企画展「貝をめぐる多彩な世界」……P.3
企画コーナー展紹介……P.4
（報告）「真澄、県北の旅」（菅江真澄資料センター）
（報告）「真澄見聞の異国情報」（菅江真澄資料センター）
学芸ノート
（生物）維管束植物さく葉標本のデジタル化について…P.5
（歴史）頭を撫ぜで運勢を知る法……P.6
博物館歳時記、表紙写真説明……P.7
平成24年度展示案内……P.8

表紙写真
屋外展示「チェンソーDEアート」

No.154

平成24年４月28日（土）～７月１日（日）

企画展 古（ふる）イイ看板

看板は昔から宣伝の道具としてつくられてきました。人々の関心を引き付け、店内に招き入れ、品物を買わせるだけの力量が看板ひとつに求められるのです。

江戸～昭和時代に秋田県内で使用された看板は、大火で焼失したり、廃業と同時に破棄されたりして、ほとんど残っていません。そのため、現存する看板はとても貴重なものとなっています。

この企画展では、県内の貴重な看板とともに、江戸・明治期のおもしろ看板、明治・大正・昭和の頃に全国で用いられた看板を展示します。様々な看板の世界をご堪能ください。

模型看板

商品をそのまま模型として看板にしたもの

「かぶと屋」※（江戸時代）

ホーロー看板

ブリキ板にガラス絵の具で印刷したもの

「銘酒白牡丹」※（昭和・戦後）

絵看板

美しい絵柄が描かれたもの

「銘酒峰廼旭」（明治時代・湯沢市）

「はらいたのくすり　熊膽木香丸」※（江戸時代）

展示構成

1．かたちを楽しむ　～模型看板～
2．色彩を楽しむ　～絵看板とホーロー看板～
　障子看板クイズ
3．なりわい　茶・薬・酒・のりもの

※印はイサオ・コレクション（秋田市）より

展示報告

企画展「貝をめぐる多彩な世界－渡辺浩記コレクションより－」

2011.12.17 ～ 2012.4.8

今から５年程前、秋田県の貝類研究の第一人者である渡辺浩記氏から、標本寄贈の申し出がありました。渡辺氏が集めた標本は、資料件数約２万件、点数にして約12万５千点、段ボール箱100箱分という膨大な量で、登録のためのリスト化に３年を要するほどでした。手作りのケースには、ラベルと共にそれぞれの標本に合わせて工夫が施されており、貝が壊れないように配慮されていました。

リスト化しながら国内外の様々な貝を見て、純粋に「貝は美しい」と感じました。色、模様、形、そのどれにも自由奔放な生命の主張がありました。生き物を見慣れた私たちですら感じたその美しさを、美しいまま来館者の方々に見てもらいたいと思いました。そのため、今回の展示では、まず貝に親しみを感じてもらえるよう、展示の前半に美しい貝、変わった貝、大きな貝など一目で分かりやすい種類を配置しました（写真１）。説明的な展示は後半に置きましたが、寿司ネタの食玩など身近な素材を使ったり、レイアウトの工夫などで、多くの人に分かりやすかったと言っていただけました。また、クイズや貝の人気投票も行うことで、小さい子どもたちにもじっくり見てもらえたようです。

写真１　展示前半部分

ところで、動物標本の中で貝は展示のしにくさという点で最高位に位置するほど、展示が難しい標本です。様々な形のせいで、こちらが意図する向きになかなか収まってくれないのです。他の博物館などでも苦労しているようで、固定のために針金で穴を開けるなどの展示手法（もちろん展示用と割り切った手法です）もありました。貴重な資料に傷をつけず、意図するままに、美しく展示する手法を探す日々がしばらくの間続きました。

答は意外なところにありました。県北部にある八峰町八森海岸の一画には、昔あった八盛鉱山のものと思われる鉱滓【こうさい、slag（スラグ）：金属精錬の後にできるガラス質の産業廃棄物】からできた「黒い砂」があります。砂の上であれば、ホネガイなどの棘が多い種類でさえ、自由にレイアウトできます（写真２）。さらに、貝には色が薄い種類が多いので、背景を黒くすると資料の色が映えます（写真３）。この黒い砂を利用した展示方法は、展示する側にとって思い通りの展示の仕方が可能になっただけでなく、来館者にも美しいとの評価をいただきました。

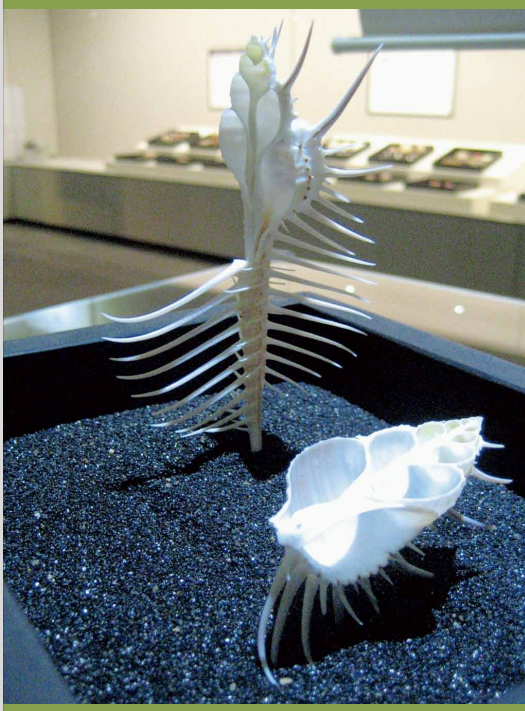


写真２　鉱滓に立てたホネガイの切断標本

展示の最後で、渡辺氏のコレクションを紹介しました。ケースがすべて手作りであること、その数、質、背後にある収集や研究の苦労に、多くの来館者から驚きと感動の声が寄せられました。博物館では、この膨大なデータを、展示に先立ってインターネット上の生物標本等の大規模検索サイトである「GBIF」や「S-Net」で検索できるようにしてあります。

「貝がこんなにも綺麗なものだとは思いませんでした。今度の夏は、海に拾いに行こうと思います。」

これは、展示に寄せられた声の中で最も多かった感想です。来館者の目が展示室を通して自然に向けられること、私たち自然系の学芸職員にとって、それが一番嬉しいことであるような気がしています。

（生物部門　船木信一）

写真３　カバザクラ

展示報告

平成23年10月22日(土)～12月４日(日)

企画コーナー展（菅江真澄資料センター）

真澄、県北の旅～真栖のころ～

菅江真澄は、秋田を再訪した享和元年（1801）から文化４年（1807）頃までの間、主に現在の秋田県北部（県北）を巡っています。

この間における真澄の日記は多く、11種類ほどが知られています。また、近年では、真澄が城下久保田で暮らしていた文政年間初めにおける県北の足跡も知られ始めています。

真澄は、秋田を再訪した当初、それまでの旅と同様に白井秀雄を名乗っていたと考えられます。その後、白井真澄へと名乗を改め、さらに文化７年(1810)初め頃から菅江真澄へと名乗を変えています。

真澄の県北に関する日記や遺墨資料をあらためて整理してみると、白井「真栖」の文字遣いをしていた時期が、文化２年（1805）と文化３年にしぼられることがわかりました。日記で言えば、《みかべのよろひ》《かすむ月星》《浦の笛滝（第二部・第三部）》の時期に当たります。

展示では、真澄が白井真栖を名乗っていた頃の日記について、その足跡と概要、そして特徴的な記事について紹介しました。そのため、展示タイトルに「真栖のころ」の副題を添えて紹介しました。

展示では、「真栖」を名乗っていた頃の日記について、足跡図といくつかの話題をパネルで示した。

展示報告

平成24年２月４日(土)～３月20日(火・祝日)

企画コーナー展（菅江真澄資料センター）

真澄見聞の異国情報

真澄が北に向けて旅をした時代は、シベリア開発に伴うロシアの南下政策で、それまで化外の地とされていた蝦夷地が大きく注目され始めた時代でした。

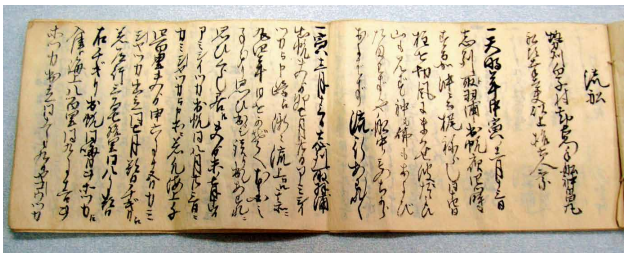
そのような時に、真澄は松前に４年間滞在し、その後、南部領下北から津軽、さらに秋田へと旅を続けています。

漂流民送還と通商交渉を目的とした第一回遣日使節であるラクスマン来航に関して、真澄は、日記《牧の冬枯》（寛政４年・1792年）と《奥の浦々》《牧の朝露》（翌年）に噂話などを記しています。また、《おがらの滝》（文化４年・1807年）では、第二回遣日使節であるレザノフ来航後に起こった「文化露寇」に対応するための秋田藩による蝦夷地出兵のことに触れています。

展示では、日露交渉史における主にラクスマン来航と文化露寇の経緯などを紹介しながら、真澄の記述との関わりを紹介し、真澄の記録が持つ意義を考えてみました。

さらに、当時の日本にとっての「異国」に関する真澄の記述について、《おがらの滝》に記録された八森出身の吉太郎をはじめとする漂流譚を中心に紹介しました。

（菅江真澄資料センター　松山修）



「流船」（青森県佐井村・渋田昌平氏蔵）
大黒屋光太夫らの漂流から帰国までの経緯が記されている。所蔵者の先祖の渋田政備は、真澄との交流が認められる人物である。真澄も目にしたのだろうか。

維管束植物さく葉標本のデジタル化について

当館の維管束植物さく葉標本の収集は、昭和46年（1971）の博物館開設準備室時代から開始されました。標本庫は、昭和50年（1975）、開館と同時に設置され、平成18年（2006）、国際植物分類学連合に申請し、AKPMとして登録されています。

分類毎の収蔵目録は、昭和61年（1986）に「合弁花植物編」、平成３年（1991）に「離弁花植物編」が発行されましたが、その後は出版されていません。

標本の整理は、平成７年（1995）から博物館友の会所属として発足した植物標本整理ボランティア「すみれの会」を中心にして進めています。

標本のラベルに記載されている採集地・年月日等は種類毎カードに手書きで記入しています。その際、通し番号を標本番号としてつけており、約55,000点になりました。平成18年（2006）からは、このカードのデジタル化もボランティアにお願いしました。平成20年（2008）からは、国立科学博物館が文部科学省の委託を受けて行っている「Global Biodiversity Information Facility（GBIF）：地球規模生物多様性情報機構」のための標本整理事業に参加し、平成23年（2011）12月末まで約39,000件をデジタル化し、提供しました。デジタル化により、検索機能が高まることはもちろんですが、収蔵標本の内訳も見えてきました。

受入内訳については、寄付や購入、委託製作、職員の採集によっていました。このうち寄付によるものが約3/4を占めています。

植物の種類についてはまだすべてを打ち込んでいないため簡単に比較はできませんが、現在2,128種類です。水辺および水生植物の種類が多く、標本点数も充実しています。

標本点数が多い上位10種類はすべてシダ植物、さらに上位50種類では30種類も占めています。

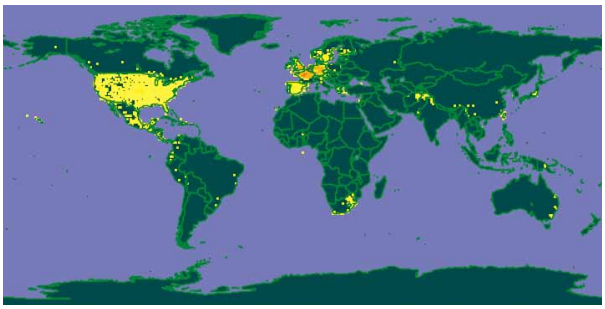
採集地については、約95％が秋田県内でしたが、市町村毎の標本点数にはかなり差があり、県南の標本は少なめです。

採集年月日については、昭和30年（1955）以降の標本がほとんどですが、古いものとしては、大正11年（1922）から昭和４年（1929）頃、佐賀徳治氏によって大館市周辺、秋田駒ヶ岳や鳥海山、カムチャツカ半島などで採集された標本があります。これらの標本の中に、昭和２年（1927）９月13日、大館市桂城公園で採集されたヒメムカシヨモギ*Conyza canadensis*があります。この植物は、「日本の帰化植物」（平凡社、2003年）によれば、北アメリカ原産で日本には明治初期に渡来し、短期間で各地に広がったと記載されています。この標本より、日本に渡来してから約60年後には秋田県に分布していたことがわかります。

ヒメムカシヨモギは、明治維新以降に分布を拡大していったため、ゴイッシングサ（御一新草）やメイジソウ（明治草）、サイゴウソウ（西郷草）、さらに鉄道線路沿いに広がったためにテツドウグサ（鉄道草）などの名前もついています。現在日本では北海道から沖縄県まで分布しています。秋田県内では、シロツメクサやヒメジョオン等と同様に水平的にも垂直的（海抜1,000m付近で生育を確認）にも広く分布する帰化植物のひとつとなっており、道端や空き地などで旺盛な生育を見せています。

ヒメムカシヨモギ

標本情報は、国立科学博物館が全国の科学系博物館の協力の基に運営しているポータルサイト「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」で検索できます。GBIFにもデータが提供されており、世界の自然史系博物館が所有する様々な標本情報を検索することもできます。



GBIFの緯度・経度つきヒメムカシヨモギ*Conyza canadensis*標本データによる分布図
http://data.gbif.org/species/5404801/
Biodiversity occurrence data accessed through GBIF Data Portal,data.gbif.org, 2012-02-07

（生物部門　阿部裕紀子）

頭を撫ぜで運勢を知る法

―秋田師範学校生徒・佐々木金一郎の備忘録から―

人文展示室、近･現代のコーナーに、秋田師範学校生徒・佐々木金一郎が書いた『思之波』と『想出』という資料を展示しています。

『思之波』は佐々木が１年生から３年生にかけて書いたもので、年代は明治44年（1911）から大正２年（1913）に当たります。また『想出』は４年生の大正３年（1914）に書いたものです。

内容は日記というより備忘録的なもので、両方を見ることで、今から百年前の若者が何に関心を持ったのかがわかります。

例えば『想出』には大正３年３月15日に起きた「秋田仙北地震」の記事があります（興味のある方は『秋田県立博物館研究報告』第37号所収の拙稿「大地震の記について」をご覧ください。地震発生時の師範学校寄宿舎内の様子や震源地探索の模様が書かれています）。

さて、ここで紹介するのは『思之波』に書かれている「頭を撫ぜで運勢を知る法」です。

これは佐々木が１年生だった明治45年（1912）１月頃に書いたもので、自分で発見したというより、観相術に興味を持って書き留めたものでしょう。「撫ぜで」と表題から秋田弁であるところが面白いです。少々手厳しい内容もありますが、それは読み手に思い当たる節があるからかもしれません。佐々木自筆の挿し絵と共に、御自分の頭をさすりながら、楽しく読みましょう。

（１）頭の前の方から額にかけて出っ張（ぱっ）た、例のおでこといふ質の人は、認識力があって、殊に男子は中々度胸が据って居る方です。尚、浮気っぽいのが疵（きのどく）。女はお気毒ながら多情執念。

（２）両方の顳顬（こめかみ）が出張って居る人は、何でも打壊するが、好きで疑えぽい人、又高慢、又短気なれば、失敗しやすく人の信用もつきませむ。

（３）福禄寿の様の如く頭がひょろ長い。尚身体の出来も悪い、物忘れする、財を儲ける力ない。教育のし次第で相当に才智も出来る。図抜けた人に成る事は出来ん。御役人に向はず、商人不可。芸人か神主・坊主がよい。又女難が多い。

（４）頭の先平たい。記憶力強し。物に飽きやすい。気変るから間違ある。又短気なれば損気。又自分の能を恃（たの）んで慢心す。

（５）頭の後方出張る。色多情。色事の慎みの悪い人。又物好の質。又何事にも飽きぽい方です。

（６）両髪に額と後頭と前頭部で角が出来て、頭の鉢が斜めに四角成った人。画師はよい。又物事に飽き安い癖有る。人を使ふ徳はあり、目の下を憐んで謙遜する心掛でなければ、心のまゝ成功は出来ん。さもなくば独の坊主となる。夭死（ようし）す。

（７）頭の頂上の真中が横に溝を立てたように成った人。何事にも向く。しかし骨胸の助けが尠（すくな）い。使ふ所ないから人に同情すると云ふ事をすれば吉い事が舞込む。子供の時、金の苦労尠く、生は立つ。

（８）頭の額際がすっぺりと切り落としたようになっている人。早くから故郷を離れて親の跡（あと）も無論継げず、独力で苦労とか苦労（くろう）をする運命を持った人です。其の上に長上（ちょうじょう）から人に助けられるという素質を持っておりませんから、まず信神でもし、仕事に迷わずにやり掛ける事を一心に貫徹するという心がけを持つよりほかに仕方は無い。人柄は剛性で疑い深くて吝嗇（りんしょく）という小厄介物がありますから、口を慎まねば災いがあります。

※判読の便のため句読点と読みがなを加えました。

秋田師範学校を卒業後、佐々木金一郎は平鹿・雄勝郡内の小学校訓導から校長となり、昭和18年（1943）から22年にかけて田根森村長（横手市）を勤めました。また郷土史の造詣が深く『秋田県政史』の編纂に携わりました。

教育者・郷土史家として大成した佐々木金一郎の若き日の『思之波』と『想出』は、百年の時を経て、物事を楽しく見る生き方を教えてくれます。

（歴史部門　畑中康博）

博物館歳時記

秋田県立博物館公式ホームページでは、「歳時記」として、博物館や小泉潟公園の出来事やようすを随時紹介しています。詳しい内容とコメントはホームページを御覧ください。本頁の日付は実施日、（　）内の日付は掲載日を表しています。

展　示

自然展示室展示替えコーナー
「オトシブミって知ってますか?」
・ゴマダラオトシブミ（10月4日）

企画展
「鉱山の記憶 YAMA NO KIOKU」
・秋田藩製造の貨幣（9月17日）

企画展
「貝をめぐる多彩な世界」
・展示風景（12月17日）

ロビー展「陸前高田市立博物館所蔵資料レスキュー活動の紹介」
・展示全景（10月9日）

菅江真澄資料センター
企画コーナー展「真澄、県北の旅」
・浅利の琵琶（10月23日）

ふるさとまつり広場
「ナマハゲ」・男鹿市相川地区のナマハゲ（11月2日）

ふるさとまつり広場
「秋田の土人形」・中山人形のかまくら（9月14日）

カメラスケッチ（博物館周辺）

小泉潟公園水心苑、
入口左側付近のもみじ
（11月17日）

分館・旧奈良家住宅の雪景色
（1月19日）

氷に覆われた男潟（12月27日）

イベントなど

博物館喫茶「ロマン」の新年、
厨房とマスター（1月5日）

11月8日 博物館ボランティアによる「つりぼり冬編」の魚づくり

わくわくたんけん室
「しめなわづくり」（12月24日）

わくわくイベント「ミッションをクリアして、お宝をゲットせよ!」（10月15日）

9月11日 博物館教室「旧奈良家住宅解説会」・おえ（御上）に座って

表紙写真説明

喫茶「ロマン」のガラスの向こう側に、木でできたたくさんのフクロウが並んでいます。チェンソーアートと呼ばれる彫刻の数々です。木を切り倒すチェンソーを使っての、ダイナミックでしかも繊細さを持ち合わせた彫刻です。当館工作技師の高橋眞夫（７５）が、３年前から見よう見まねで製作に励んできたものです。窓に広がる冬景色の中に、にぎやかな彩りを添えてくれ、見る人の気持ちを温かくしてくれています。高橋は３月末で退職しますが、フクロウたちが新たな仲間といっしょに来冬も訪れてくれることを願っています。（編集子）

秋田県立博物館 平成24年度 展示案内

特別展

アンダー×ワンダー！

－北東北の考古学最前線－

大型土偶頭部：縄文時代後期（文化庁）
※開催期間中限定公開します

北東北で発掘された驚きの出土品の数々が一堂に会します。

籃胎漆器：縄文時代晩期
（秋田県埋蔵文化財センター）

9月22日(土) ～ 11月25日(日)

企画展

古（ふる）イイ看板

懐かしくって、ちょっとおもしろい、古いけどイイ味出してるお店の看板大集合。江戸～昭和の雰囲気をご体感ください。

4月28日（土）～7月1日（日）

わくわくたんけん夏まつり

夏ダ！まつりダ！わくわくダ！博物館のオリジナルアイテムで体験したり考えたり、楽しく学べる場を提供します！

7月20日（金）～8月26日（日）

新着・収蔵資料展

新着資料や収蔵資料を一同に公開。総合博物館ならではの全部門が展示する、飽きさせない構成です。

12月15日（土）～ 2013年4月7日（日）

菅江真澄資料センター 企画コーナー展

- 真澄地誌の諸相　7月 7日㊏～ 8月26日㊐
- 真澄と秋田の国学者　10月20日㊏～12月 2日㊐
- 伝説伝承そぞろ歩き　2013年 2月 9日㊏～ 3月24日㊐

秋田の先覚記念室 企画コーナー展

ツツガムシに挑んだ秋田の医師たち
～田中敬助・寺邑政徳～　6月 2日㊏～ 8月26日㊐

ふるさとまつり広場

- 天神信仰　4月10日㊋～ 5月31日㊍
- 七夕絵どうろう　6月 1日㊎～ 7月20日㊎
- 秋田の土人形　9月11日㊋～10月28日㊐
- 東北のこけし　10月31日㊌～ 2013年1月31日㊍
- 雛人形　2月 1日㊎～ 4月 7日㊐

ロビー展示

楽しいしぼり染め　作品展　7月28日㊏～ 8月26日㊐

秋田県立博物館ニュース　No.154　2012.3.26 発行
編集・発行　秋田県立博物館

〒010-0124　秋田県秋田市金足鳥崎字後山 52
TEL：018-873-4121 / FAX：018-873-4123
ホームページは“秋田県立博物館”で検索！